

クレイジーフォックスのぼやき－医師不足だけなのか？

『この程度だったらこの内容で取れる施設は少ないので、全体として大きな影響は及ぼさないだろう』という甘い考え、ちょっとした判断ミスが全国的に大きな影響を及ぼし、病棟閉鎖等で地域医療の崩壊を招いてしまった。

7対1看護や72時間看護師当直労働時間上限を取れるところは、病棟単位だったらそこそこ可能であるが、「病院全体となると取れるところは少ないだろう」という考えで日医は看護協会のいう7対1看護を中医協で認めてしまった。年末年始の時期に加え、日医会長選挙で細心の注意が行き届かない、どさくさに紛れた交渉で、中医協は承諾をしてしまった。そのことが全国国立大学をも含む看護師争奪合戦となり、中小病院から診療所まで看護師引き抜き合戦が行われてしまった。そのため、病棟閉鎖やひいては地域中小病院の経営が成り立たなくなり、地域医療の崩壊を招いてしまった原因のひとつにあがっている。

昨年の暮れに雇用の質の向上を視点に、看護協会から看護師夜勤64時間が国へ提言され中医協で議論された。たまたま今回の診療報酬改定には間に合わなかったが、いまだその方針は消えず、2年後の診療報酬改定に向けて着々と手を打っている。看護協会の提言の出し方やタイミングが老獪で今回も年末年始、診療報酬改定、日本医師会会長選挙等を控えた関係者の心の隙をぬって実行に移している。提言は言葉易しく表現しているが、目指すゴールは決まっている。一職種団体による労働条件改善のための政策が、ひいては日本の全職域に渡る労働環境を締め付けることになり、当然の結果として地域医療崩壊がますます進行することになる。恐ろしいことだ!!

(おはな)



大通公園を望む窓辺から

激動する世界

2012年の世界は、いま分かる範囲で言うなら、世界的に指導者の選挙があり、「ポスト・ポスト冷戦」構造の構築、すなわち「ポスト冷戦」構造の崩壊による新秩序が形作られる年となるであろう。昨年11月にはギリシャとイタリアの首相が交代し、12月にはスペインの首相が交代した。本年1月14日には台湾総統選があり、与党・国民党のマー・インチュウ氏が80万票（6%）差で再選され、中国との親和促進が承認された。3月にはロシア大統領選挙、春にはフランス大統領選挙、秋にはアメリカ大統領選挙があり、中国では4月の全人代でシー・チンピン氏が国家主席に就任し、10月の共産党大会で総書記になるであろう。12月には韓国の大統領選挙がありリーダーが変わる。日本では4月以降に衆議院の解散総選挙があり、指導者が変わるであろうか。

世界の指導者がもし変わると、政治もいくばくか変わるであろう。しかしヨーロッパ諸国の国家債務危機は今後も存在し、国家デフォルトの可能性は決して小さくはない。いや連鎖的デフォルトの可能性が大きいと言える。アメリカは上位1%に富が集中し、大多数の国民は購買力がなく、ウォルマートの安価な中国製品で凌いでいる。「1%と99%であること」を知ったアメリカ国民はどう行動するのであるだろうか。金融資本主義に首まで浸かったアメリカにおいて、政府は「経済の基本取引」の再構築ができるか。日本はGDPギャップから見ても流通通貨量が過少で、内需を喚起できないでいる。こんな時に税金を上げて国民負担をより重くする政府では、デフレ脱却の道筋は見えてはこない。財務省の言いなりにならず、もう少し経済と社会を知った大人の政府を誕生させたいものである。もしユーロあるいはEUが消失した世界は……

(S. Y.)